

今号のテーマ

北海道開発局の歩みを振り返って

平成23年度は開発局が発足して60年。先月号に続き室蘭開発建設部の代表的な事業・施設を紹介します。

国際拠点港湾※ 苫小牧港

苫小牧港は、西港区と東港区があり、背後には道内一の工業地帯があります。札幌や新千歳空港と近く、他の道内主要都市へも高速道路網により接続されるほか、多くの定期航路が開設され、道内の流通拠点となっています。

苫小牧港の歴史は、大正初期、河口を利用した漁港づくりに始まり、大正後期には、石狩・空知炭田の積出港としての可能性が見出され、幾多の構想を経て、昭和26(1951)年から、国による一大プロジェクトとして整備が行われています。



※国際拠点港湾とは、国際海上輸送網の拠点として特に重要として政令により定められている港湾。全国で23港。道内では、苫小牧港と室蘭港が指定されている。以前は、「特定重要港湾」と呼ばれていた。

《西港区》

西港区は、石油配分基地、飼料基地が形成されているほか自動車工業等、多種多様な企業が立地しています。また、市街地にも近く商港としても道内随一で、多くのフェリー、RORO船定期航路も開設されています。(昭和26年着工、昭和38年供用開始)



昭和26年に着工して間もない頃の様子。防波堤が伸びている状況です。



昭和37年、開港に向かって最終段階を迎えた頃。苫小牧港は、国内初の内陸掘込式人造港であることが特徴。



昭和44年頃の様子。昭和37年の写真と比べると、掘込がさらに進んでいます(ほぼ同じ方向から撮影)。



平成8年、入船ふ頭商港-14m岸壁の上部工事の様子。

《東港区》

東港区は、石炭火力発電、石油備蓄等、エネルギー関連やリサイクル関連、自動車関連・機械・金属等の企業が立地しています。国際コンテナターミナルがあるほか、秋田・新潟等を結ぶフェリーも就航しています。(昭和51年着工、昭和55年供用開始)



昭和51年、着工前の様子。工事は、同年8月から行われました。



昭和54年、東防波堤が伸びている状況です。陸地中央は、北海道電力苫東厚真発電所。



昭和56年、埋め立て工事開始直後の様子。

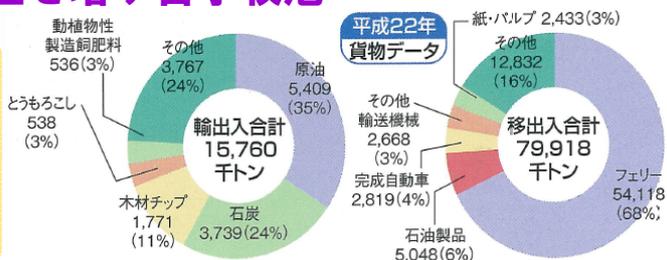


昭和62年、内防波堤上部工事の様子。

さらに重要性を増す苫小牧港

外国貿易コンテナ取扱個数は、2隻同時に荷役できるようになり、前年度と比べ約16%増。開港以来、初めて20万TEUを超えました。

TEUとは・・・20フィートコンテナを1単位として計算したコンテナ貨物量を表す単位。



今後の苫小牧港の整備方針は？

「発展するアジア経済圏に北海道を組み込む『要となるみなと』を目指し、以下の方針の下、平成30年代前半を目標年次として整備を進めます。

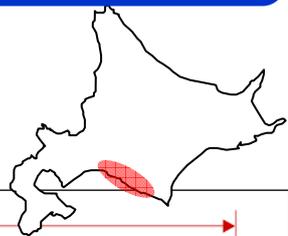
- ◆ 国内外輸送ネットワーク拠点としての機能強化
- ◆ 交流、観光の拠点づくりと住民参加による快適な「みなとまちづくり」・良好な港湾環境づくり
- ◆ 安全・安心で信頼性の高い港湾空間の形成



高規格幹線道路

日高自動車道

日高自動車道は、苫小牧市から浦河町までの延長約120kmの高規格幹線道路です。昭和63年度から事業に着手し、平成10年に苫小牧東IC～厚真IC間、平成15年に厚真IC～鶴川IC間、平成18年に鶴川IC～富川IC間が開通し、平成24年3月、新たに日高富川IC～日高門別IC間(L=5.8km)が開通しました。その先の区間についても、順次整備を進めています。



整備効果の例

◆地域間のアクセス向上!

北海道縦貫自動車道と連結することで、主要都市、苫小牧港、新千歳空港へのアクセスが容易になります。



◆主要都市へスピーディーに!

主要都市までの移動時間が短縮され、札幌や苫小牧方面の高次医療施設へのアクセスが向上します。また、定速走行により、安定・安全な軽種馬輸送が可能になります。



◆災害時の代替路として!

災害等による一般道路の不通時の代替路として機能します。



平成15年の台風10号では、国道235号が約45時間の通行止めとなりました。

日高富川IC～日高門別IC間開通! 日高町で開通式が行われました!

3月17日、開通記念式典が日高町で行われ、式典には、国会議員や地元関係者の方々約100人が出席。はさみ入れ式後に行われた通り初め式には、来賓の方々を乗せた車両約20台が参加しました。



【右写真】日高門別ICで行われた、はさみ入れ式の様子

トピックス

平成23年度「手づくり郷土(ふるさと)賞」認定証伝達式

えりも町の「郷土資料館 N (ほくい) 42度の会」の「地域資源の掘りおこしと活用～猿留(さるる)山道を中心に～」という取組が、平成23年度「手づくり郷土賞 一般部門」に認定され、平成24年2月23日、町内で認定証の伝達式が行われました。同会では、江戸時代に開削され明治時代にも利用されていた猿留山道の復元や散策路の整備をボランティアによって行っており、今回このような地域活性化に向けた取組が評価され、認定されたものです。

◆「手づくり郷土賞」は、地域の魅力や個性を創出している社会資本及びそれと関わりを持つ優れた地域活動について、国土交通大臣が認定する制度です。



認定証伝達式

【発行・編集責任者】北海道開発局室蘭開発建設部 広報官 0143-25-7051 地域振興対策官 0143-25-7053

〒051-8524 室蘭市入江町1番地14 <室蘭開発建設部ホームページ> → <http://www.mr.hkd.mlit.go.jp/>

※今回は、北海道開発局60周年をテーマに代表的な事業として、苫小牧港の港湾整備事業と日高自動車道の整備について紹介しました。また、2月に行われた、「平成23年度 手づくり郷土賞」認定証伝達式についても掲載しています。

北海道開発局では、「北海道開発局行政へのご意見・ご要望」メール窓口を開設しており、広く道民・国民の皆さんからのご意見をお聞きしています。詳しくは、こちらをご覧ください。 → http://www.hkd.mlit.go.jp/iken/iken_yobo.html